

## 第12回県民公開講座 平成28年度感染症予防衛生講習会開催報告

平成28年度感染症予防衛生講習会が6月24日（金）午後1時30分から、新潟市民プラザ（NEXT21）で開催されました。この講習会は平成17年から開催しており、今年で12回目となります。（一社）新潟県ペストコントロール協会が主催、新潟県、新潟市、（公社）新潟県獣医師会の共催で、県、市町村、教育関係、福祉施設、食品事業者のほか、一般県民に広く受講していただくため、県民公開講座として90人以上の方から参加をいただきました。

今年の講習会は、お二人の講師から御講演をいただきました。

講演Ⅰでは、国立感染症研究所名誉所員、医学博士の小林睦夫先生から、「蚊が媒介する感染症、特にジカウイルス感染症について」と題して御講演をいただきました。

日本に広く生息するヒトスジシマカが、デング熱やジカウイルス感染症の媒介生物としてクローズアップされているが、日本の対策は手ぬるいし、一般市民への広報も不足しているとのことのご意見でした。海外では「蚊に刺されることは危険」と認識されており、シンガポールなどでは、日常生活の中で蚊に刺されることがないように蚊の生息密度を下げるための市民教育や駆除が行われていて、日本のように都市部や一般の住宅地で蚊に刺されることは少ないとのことのお話しでした。

一昨年デング熱が日本で流行した背景には、日本人が海外で感染する輸入症例だけでなく、海外からの観光客増加でウイルスが国内へ持ち込まれる頻度が増加していること、夏期の気温が高くなり蚊の体内でのウイルス増殖率が高くなっていることも要因と指摘されていました。このままではデング熱やジカウイルス感染症が日本に定着するおそれがあり、蚊の幼虫対策や、蚊が隠れることができる草木の伐採、蚊に刺されることの危険性の周知が必要とのことでした。

保育園の先生から園児が蚊に刺されないための対策について出された質問には、園庭の草木の密度を下げ、周囲50メートル程度の雨水マスの幼虫駆除をするよう具体的な提案をされ、庭に出ては蚊に刺されている自分を反省しつつ、今更ながら衛生害虫の防除対策の重要性を痛感しました。

講演Ⅱでは、国内のノロウイルス研究の第一人者で、（一社）新潟県環境衛生中央研究所理事、医学博士の西川眞先生から、「なぜ病原体が拡散？～助長要因と実際的な修正法の提案～」と題して御講演をいただきました。

熊本地震の避難所でノロウイルス感染症が広がった事例や、おにぎりや黄色ブドウ球菌食中毒が発生した事例をあげ、その原因と対策を述べられました。その中で、災害時にはたくさんのボランティアスタッフも環境の悪い中で活動しており、その方々への教育や情報提供の方法に特別な配慮が必要とのことのお話しでした。災害時には避難所で「手を洗いましょう」等の呼びかけや掲示がたくさん行われるが、それよりも具体的な行動ができるようきれいなタオルを配り、汚れ物を回収するといった具体的な対策の効果が高く、押しつけにならないような配慮が必要とのことでした。

また、体調が悪くても言い出せない人が多いため、積極的な声かけをすることで早期に感染者を見つけ、迅速な対応が可能になるとのお話しもありました。

講習会終了後のアンケートにおいても、「蚊が人にとって危険な生物であることがわかった」「とてもわかりやすい話であり、多くの方が聞きに来るようもっと宣伝してほしい」などの感想をいただき、次回の講習会にも参加したいという声が多く聞かれています。

来年度も、より拡充した内容での開催が期待されるようです。

